

留 学 報 告 書

記入日:2020年7月1日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ニューヨーク州立大学ニューパルツ校 現地言語: New York State University of New Paltz
留学期間	2019年8月～2020年3月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2020年3月21日
明治大学卒業予定年	2022年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月下旬～12月中旬 2学期:1月中旬～5月中旬 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	Undergraduates: 6,807 / Graduate students: 950
創立年	1828年

留学費用項目	現地通貨 (ドル)	円	備考
授業料	50	5,454円	
宿舍費	6,884.03	750,947円	
食費	4,357.59	475,350円	セメスターごとに払う学内での食費(ミールプラン)とその他外食費など
図書費	300	32,725円	
学用品費	50	5,454円	
携帯・インターネット費	0	0円	
現地交通費	0	0円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	200	21,817円	
被服費	300	32,725円	
医療費	1,489.20	162,450円	渡航前の予防接種(必須・推奨全て)
保険費	1,085.39	118,400円	形態:現地学校指定の海外保険
渡航旅費	1,925.10	210,000円	緊急帰国時の航空券変更手数を含む
ビザ申請費	160	17,453円	
雑費	300	32,725円	
その他	1833.42	200,000円	ヨーロッパ旅行費
その他		円	
合計		2,065,500円	コロナウイルスの影響で春学期の中盤で帰国し、返金があったため、本来1学年間の留学が達成できていれば+30万円ほど

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:羽田空港 目的地:ジョン・F・ケネディ空港 経由地:	
復路 出発地:ジョン・F・ケネディ空港 目的地:成田空港 経由地:	
渡航費用	
①往復チケットを購入した場合 航空会社:ANA 料金:約 20 万円	
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: _____ 料金: _____ 復路 航空会社: _____ 料金: _____ ∴合計: _____	
航空券購入方法	
<input checked="" type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: HIS) <input type="checkbox"/> インターネット(サイト名: _____) <input type="checkbox"/> その他(_____)	
滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: Ashokan Hall) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2)部屋の形態	
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 5 人)	
3)共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4)住居を探した方法:	
留学先大学の斡旋。East West Living Learning Community というコミュニティーに参加申請すると自動的に Ashokan Hall になる。	
5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
Ashokan Hall が一番人気の寮のようだった。教室棟によっては少し距離があるがダイニングホールにはとても近く、綺麗で設備もいい。10months の寮とそうでない寮、スイートタイプの寮と二人部屋の寮などたくさんあるので、事前に調べて希望すると良い。	
現地情報	
1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)	
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所: _____)	
2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)	
<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等: _____)	
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?	
情報収集に関しては、インターネットで街の基本情報を調べた時と、ニューパルツに留学経験のある先輩に話を伺った以外は特に何もなかった。現地では学生自身が SNS に被害情報などをのせて拡散していた。	
4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。	
Wifi 環境は整っていた。	
5)現地での資金調達はどのように行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)	
基本的に Visa カードを使い、必要な時だけ ATM で現金をおろした。最初に一気に必要費用+@を振り込んでもらったので、無駄遣いせずその中でやりくりできるように、追加の送金はしてもらわなかった。	
6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。	
特になくて困ったということはない。学校周辺で手に入らなくても、ニューヨークシティなど都市部に行けば日本人スーパーなどがある。しかし、物価が高いため、日本だと 100 円ショップで手に入りそうな物も\$3-4 で売られていることがある。	
7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)	

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
30 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか？	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Women's, Gender, and Sexuality Studies	女性学入門
科目設置学部・研究科	Women's, Gender, and Sexuality Studies
履修期間	春学期
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(45分)+小グループディスカッション(50分)(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に途中休憩込み 50分が2回
担当教授	Dr. Pabon 他3名
授業内容	授業の前半 50分は大きなホールで行われる。担当教授が四人ほどいて、毎回交代で講義を行う。時々、ゲストスピーカーがくる。パワーポイントを使った講義で、たまに映画や短い映像を見る。教授と生徒間での質疑応答や対話も多い。後半 50分は、三十人前後の生徒に対し一人の教授が付き、小さな教室に移動して、講義から発展したディスカッションをする。
試験・課題など	他の科目とはかなり自由で変わった課題が多かった。一番最初の課題では、Who Am I?というテーマで自分について自由にまとめ、発表するというもので、自分のセクシュアリティや虐められていた過去について涙ながらに話す生徒もあり、印象的だった。リーディング課題から印象に残った文を引用し、それに関する意見をまとめるといった課題も数回だされた。また、インスタグラムを使って関連する画像を投稿するというものもあった。総じて、文書で提出するというよりも、人前で意見を発言したり、行ったプロジェクトを発表したりなど、実践的な試験・課題が多かった。
感想を自由記入	先述の通り、ジェンダー系の授業は自由度が高い印象だった。暗記してテストで高得点をとったり長い論文を書いたりする必要がない代わりに、自分なりの意見を持ち、それを積極的に発信して人と共有するというのが求められた。とても楽しかったが、特に後半のディスカッションの時間には、全員の前で発言しないとポイントがなかなかつかないというところで苦戦した。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Social Inequality		社会学	
科目設置学部・研究科	Sociology		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Carolyn Corrado		
授業内容	大きなホールで行われるが、頻りに周りに座っている生徒と小グループを組んで話し合うことがある。教授と生徒間での質疑応答や対話も多い。パワーポイントを使った授業で、たまに映画や短い映像を見る。毎回授業の最後に、専用のサイトにアクセスして、授業内容に関する問題に回答したり、意見を記述したりする簡単な課題があったが、それが出席確認になっていた。		
試験・課題など	Semesterに3回のみオンラインテストがあった。問題数はかなり多いが、全て選択式だったため、平均点もかなり高かった。3回のテストが成績の90%でのこりの10%が出席であるため、テスト内容は難しくはないといえ、総合評価で高得点を得るためにはコツコツ勉強をすることが必要だった。		
感想を自由記入	アメリカ・ニューヨークならではだと思うが、教室には白人系・黒人系・ラテン系などあらゆる人種の生徒、あらゆる国や地域にルーツがある生徒がいるため、教授の授業からだけでなく、小グループでのディスカッションで学ぶことが大変多く、今まで持っていたステレオタイプが毎回の授業で覆されていく感じだった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
American Musical Theatre		アメリカのミュージカル	
科目設置学部・研究科	Theatre		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Katya Stanislavskaya		
授業内容	オペラなどミュージカルの成立から2000年代の現代ミュージカルまでの様々な作品を軸に、脚本家や作曲家、演出方法やオーケストラの奏法、作品が作られた時代背景やその作品がどう社会に影響を及ぼしたのかなど、あらゆる視点から深く学ぶ。		
試験・課題など	選択式の小テストが数回行われる。また、学期に数4回リーディングレスポンスというものがあり、エッセーや論文を読み、問題に文章で回答する形の課題があったが、リーディングの文章量も多く、古典的な物もあり、回答も短文でなく論文のような形で構成しなくてはいけないので、比較的重かった。また加えて、1つ大きなペーパー課題があり、最後にはグループであたらしいミュージカルを企画するというプレゼンテーション課題があった。		
感想を自由記入	授業のレベルが400番台(4年生レベル)だったので、評価基準や求められる論文のレベルは高かったが、英論文を書くのは得意だったので、明治大学で学んだポイントを掴んでいれば大丈夫だった。しかし、課題の量が全体的に多い(または毎回の重い)印象だった。また、積極的に発言することが求められるが、Theater専攻の学生が多く、視点が鋭いので、なかなか発言しにくかった。ミュージカルが好きで、経験者でもあるので、難しくても楽しめた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
History of Jazz		ジャズの歴史	
科目設置学部・研究科	Music		
履修期間	春学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回		
担当教授	Sara Jecko		
授業内容	ジャズの歴史を重要な時代背景や人物などとともに学ぶ。基本的にパワーポイントもホワイトボードも使わないで先生が口頭で進めていく。教科書は一応あるが、授業内では使わない。音楽を鑑賞して意見を述べたり、時代ごとに比較したりした。		
試験・課題など	一番最初に、習った構成にしたがってブルースの歌詞を書く課題があった。のちにリズムやメロディーをつけたり、習った歴史上の人物や時代背景を照らし合わせて、「もし自分がその時代にジャズ曲をプロデュースするなら」といった内容のエッセーを書く課題もあった。音楽経験があったので、楽譜を作ったところ、高評価をもらった。実際に楽器を演奏して動画を提出する生徒もいた。		
感想を自由記入	いわゆる楽単かもしれない。自ら学びにいかこうとしないとかかなり眠くなる。先生は全くホワイトボードに書いてくれないので、最初は人名や重要単語がわからない時があったが、途中からホワイトボードを使ってもらおうようお願いをした。音楽経験があると楽しいと思う。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
East West Living and Learning Community			
科目設置学部・研究科	Asian Studies		
履修期間	春学期		
単位数	1		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に 130 分が 1 回		
担当教授	Yongli Li		
授業内容	先生が毎授業配るシートにそって、東アジアの文化を中心に話し合っって異文化の理解を深める。生徒は主に日本とアメリカの生徒で構成されていたため、その 2 国の話題を中心に、中国出身の先生が付け加える形だった。また、授業外の時間でアジアの文化を紹介するイベントを行った。		
試験・課題など	キャンパス内で行われるアジア文化に特化したような授業外の特別講義に参加し 3-400 字程度の感想文を提出した。また、授業外の Japanese Conversation Table または Chinese Conversation Table という交流会のようなものに 3 回出席することが求められた。		
感想を自由記入	先生が新任の方で、あまり詳しい引き継ぎもされていないようだったので、毎回模索しながら、またイベントの際には生徒自ら以前この授業を持っていた先生に連絡をとって計画を進めた。学期に 5 回しかあつまることのないのに対し、イベントの開催などやることが多いので、授業外の時間で個別で集まるが多かった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Transnational Feminism		トランスナショナル・フェミニズム	
科目設置学部・研究科	Women's, Gender, and Sexuality Studies		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Heather Hewett		
授業内容	グローバリゼーションによる女性運動や女性を取り巻く政治的・倫理的問題、人権問題への影響について主に焦点を置き、トランスナショナルフェミニズムについて考える。授業は教科書に沿って行われ、パワーポイントなどはなく、基本的に小グループでのディスカッションや先生と生徒間での対話・質疑応答などで進められる。オンライン授業に移行してからは、自由参加のライブ授業が行われたが、日本時間の夜11時から1時間程度と比較的参加しやすかったため、全て参加した。		
試験・課題など	クラスの子とペアを組んで、フェミニズムに関するニュースを要約し、学んだことをふまえた視点から意見を述べるというプレゼンを毎授業1組ずつ生徒の前で行う。毎授最低30-40ページ程度のリーディングがあり、それについて学期中10回以上要約を提出する。また、リーディング内容に関する記述の小テストが数回あった。最終課題は複数の項目に分かれた質問に答える形の論文だった。		
感想を自由記入	積極的かつ深い理解を踏まえた発言などが求められた。政治や経済、現代世界史などあらゆる範囲を広くカバーしている内容のため、私にとっては難しく毎授業の課題も重めだったが、やりがいがあったし、何より先生がとても良い方だったので、留学中で一番とってよかった授業だと思う。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Women and Popular Culture		女性とポップカルチャー	
科目設置学部・研究科	Women's, Gender, and Sexuality Studies		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Eobyn Sheridan		
授業内容	実際に自分がどうポップカルチャーに触れて生きてきたのかを考えながら、時代とともにポップカルチャーはどう変化し、どのように女性のあり方やジェンダーに影響を与えたのかを考える。スーパーボウルでのハーフタイムショーなど、リアルタイムな話題を話し合うことも多かった。基本的に生徒の意見や先生との対話、質疑応答で授業が進められる。オンライン授業に移行してからは、授業というよりも意見交換という形で自由参加のライブ授業が行われたが、日本時間の深夜になったため参加できなかった。		
試験・課題など	各週の授業内容をもとに、それに関連したポップカルチャーに関する話題やトピックを取り上げ、エッセイにする課題が5回ほどあった。最終課題はそのまとめとなる「プレイリスト」作成だった。		
感想を自由記入	とても楽しく、ためになる授業だった。先生がかなりユニークな方で、生まれて今までこんなに自由な授業は受けたことがない！と思うほどなんでもありな授業という印象は受けたが、現代のエンターテインメント業界・メディア界で起こっていることをしっかりと問題視し、理解し、落とし込んで自らの意見を持つということが求められた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Small Group Communication		コミュニケーション学	
科目設置学部・研究科	Communication		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Noura Hajjaj		
授業内容	小グループでのコミュニケーションスキルとその重要性を論理的・実践的に学ぶ。授業は基本的に教科書に沿って行われる。中盤から3-4人のグループを組み、授業内タスクや課題をこなした。オンライン授業に移行してからは、時間を設けて授業を行うことはなく、毎週グループ課題を提出した。		
試験・課題など	オープンブックの小テストが数回行われた。また、グループワークでは分担して論文を読み、まとめ、全員で一つの論文を完成させるという分析と実践を同時に行うような課題だった。最終課題も同様だった。		
感想を自由記入	先生がスペイン語なまりの強い英語を話す人なので、たまに何を言っているのか聞きにくいことがあるが、基本的に教科書の内容を喋っているだけだった。グループワークでは、私以外の生徒があまり積極的に物事を引っ張っていくタイプではなかったらしく、まとめるのが大変だった。オンラインに移行してからは時差の関係でコミュニケーションがとりにくくなったが、チャットなどを利用して頑張った。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Introduction to Black Studies		黒人学入門	
科目設置学部・研究科	Black Studies		
履修期間	秋学期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)		
授業時間数	1週間に75分が2回		
担当教授	Blair Proctor		
授業内容	アフリカや黒人、アフリカ系アメリカ人、などについて基本的なことを学ぶ。まずは Black Studies とは何か、それが受け入れられてこなかった歴史、現代における Black Studies とはなど、学問としての黒人学についてディスカッションや先生との対話を通して深く学んだ。オンライン授業に移行すると、時間を設けて授業を行うことはなく、授業の曜日ごとに課題を提出した。		
試験・課題など	学期に4回、質問に答える形で1000字程度のエッセーを提出する。中間試験や最終試験もエッセーだった。100レベルなのであまり高度なライティングスキルは求められないが、自分の意見をはっきり述べるのが重要だった。		
感想を自由記入	先生ご自身がアメリカ南部出身のアフリカ系アメリカ人だったので、リアルな経験を交えた内容で講義してくれた。また、生徒の半数以上はアフリカ系アメリカ人で、白人とラテン系が数人、アジア系は私のみだった。ディスカッションでは、それぞれのルーツで様々な意見が飛び交い、固定観念が破壊されたような授業で本当に面白かった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
East West Living and Learning Community	
科目設置学部・研究科	Asian Studies
履修期間	秋学期
単位数	1
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に120分が1回
担当教授	Yongli Li
授業内容	春学期の同名授業と体制が変わり、パワーポイントを使い東アジアの文化を中心に異文化の理解を深める、講義色の強いものになった。また、授業外の時間でアジアの文化を紹介するイベントを行った。オンライン授業に移行してからは、参加自由のライブ授業となったが、時差の関係で朝6時からだったので、全ての授業に参加することはできなかった。
試験・課題など	春学期と同様、キャンパス内で行われるアジア文化に特化したような授業外の特別講義に参加し3-400字程度の感想文を提出した。また、授業外の Japanese Conversation Table と Chinese Conversation Table という交流会のようなものに各1回以上出席することが求められた。さらに、授業内では東アジア文化について一人5分程度自由にプレゼンする課題があり、私は「日本のおもてなし文化」について紹介した。最終課題は、影響力を与えた東アジア文化についての論文だった。
感想を自由記入	秋学期も、イベント開催の際には生徒自ら以前この授業を持っていた先生に連絡をとって計画を進めた。以前より講義色が増し、面白くなった。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト, 書籍, 機関など

マイナビ 2022、マイナビ国際派、One Career

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

航空業界 客室乗務職

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

友人はボストンキャリアフォーラムに参加していましたが、私は参加しませんでした。モチベーションアップやESの経験を積むなど、メリットもあると思いますが、スーツなど用意するものが多いので、参加する必要も特にないと思います。ただ、私は希望する職種が決まっていたので、「留学の経験がその仕事でどうつながるのか」ということは、常に考えるようしていました。また、無理のない程度に、興味の延長くらいでその企業の情報収集を行っていました。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備, 試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2018年 1月～3月	
4月～7月	入学 TOEFL 対策
8月～9月	TOEFL 試験(2回)
10月～12月	希望の大学が決定 書類・面接一次試験(不合格)→二次応募
2019年 1月～3月	留学手続き開始
4月～7月	同じ留学先の先輩と連絡先を交換 航空券購入 ビザ申請 健康診断書準備、予防接種
8月～9月	留学開始
10月～12月	中間・期末試験 ニューヨークシティ旅行
2020年 1月～3月	ヨーロッパ旅行
4月～7月	中間試験 コロナウイルスの影響で授業が中断(3月中旬) 帰国(3月21日) オンラインで授業が再開(3月30日) 期末試験(全てオンライン) 5月15日全課程終了 S2から復学
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

私は、第一次試験の際には、ホスピタリティについて深く学びたくて志望校を埋めましたが、全て不合格してしまいました。今回留学したSUNYニューパルツ校は第二次での応募の際の第一希望であるので、実際第6希望ということになります。この学校を選んだ理由は、まず学部の縛りがなく幅広い分野を学べること、日本ではあまり主流ではない女性・ジェンダーの選考や人種に関する授業が多く展開されており、多文化共生のまちと言われるニューヨークでリアルな体験をしながら学べると思ったからです。また、大好きなミュージカルを学問として学べることに惹かれ、ここならばあらゆることを楽しみながら深く学べると思いました。

どこに留学するか決まっていなくても、決まっている人はその学校のレベルがどれくらいであろうと、とにかく選択肢を広げたり、留学に出発した後の自信につなげるためにも、TOEFLの対策はしっかりしておくべきです。私は入学前から留学することは決めていたので、留学経験者の親しい先輩にお話を伺いながら、もらった対策本や買った単語帳、図書館の対策本などあらゆる手段を使って対策しました。

また、語学力向上以外のポイントで、自分がどうして留学をしたいのか、それが自分の人生においてどういう意味を持つのかというところを言語化しておくことが大事です。私は留学に向かって一生懸命になるあまり、その大事なところが試験官に伝わる程うまく詰められていなくて失敗しました。就活などにも役立つので早めに考えておくのが良いと思います。